

その情熱で



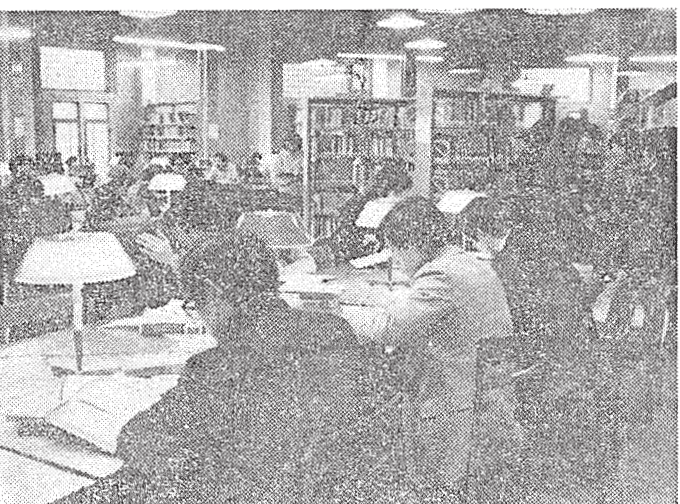
高松塚古墳発見の主役

[illegible]

情熱を静かに発散

あま時間や休暇にはこ
大限利用して専門分
ず、幅広い教養を身に

図書館

[illegible]

ゼミナール

真理探究・人格養成の苗床

『近年、大学はますます大規模になり、教師と学生および学生人間関係が希薄なものとなり、あるが、このよな中においてゼミナールが何となく救いの場、一つある。文芸学部において、とりわけ、この役割が大きいものになってきて、』

ゼミナールとは、学生の選定の教師の指導の下に小人数

時に楽しく時に淋しく

平林社「世界大英事典」によれば「ゼニールの源はテ、動物の尿の乾いたもの、野矢動の車や金いコンパ、ゼミ旅行等を通じて、お互い人生を、社を共にし、人格の磨練の機会を多く生じてゐるのである。ゼニールとは喜劇の探察、人格の磨練との、役劇を描いてゐるものであります」。

充実した学生生活を

明治十九年関西法律学校として開学されて以来、八十一年の伝統を誇る関西大学は、波乱万丈にみちた明治、大正、昭和の日本史の流れにもまれながらも幾多の人材を社会に送り出してきた。

青墨の志を抱き、青春のひとときを関西大学に送った先輩たちの姿も、羽織袴の下駄ばきの昔から、角帽、詰襟皮力パンを経て今や多数の女子学生と同じく吹し出されていく。

ひたむきな學問への情懷、真理の探究はゼミナールに、実験室にあるいは古墳の発掘に情熱を傾けしめあくなき自己錬磨はスポーツ、クラブ、同好会の課外活動にそのでてを見いだす。

受験生諸君に関西大学の学生生活を如実に受ってもらいたいとながってこの特集を編集した。

百家争鳴の時代

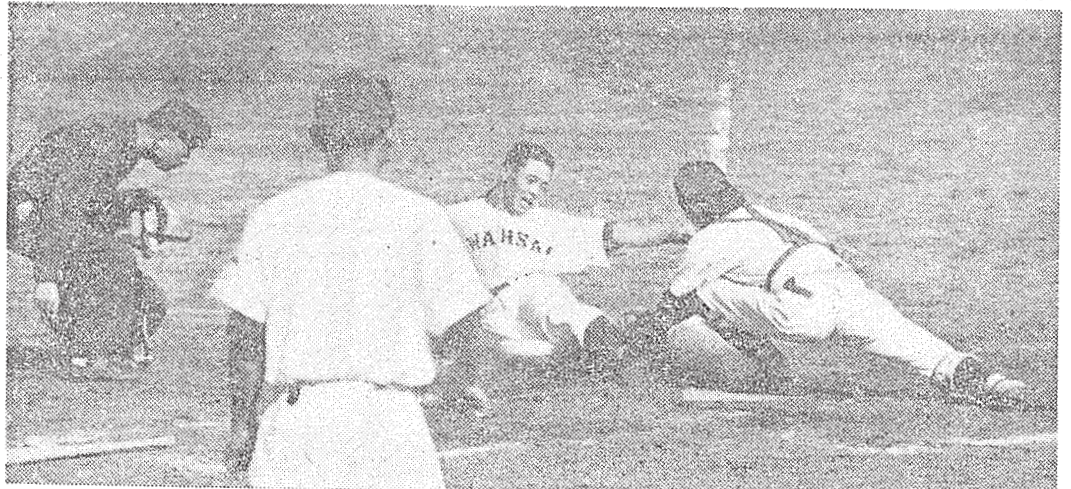
[illegible]

クラブ・同好会は花ざかり



好会は花ざかり

優勝たる々々堂
野球・庭球
アイスホッケー

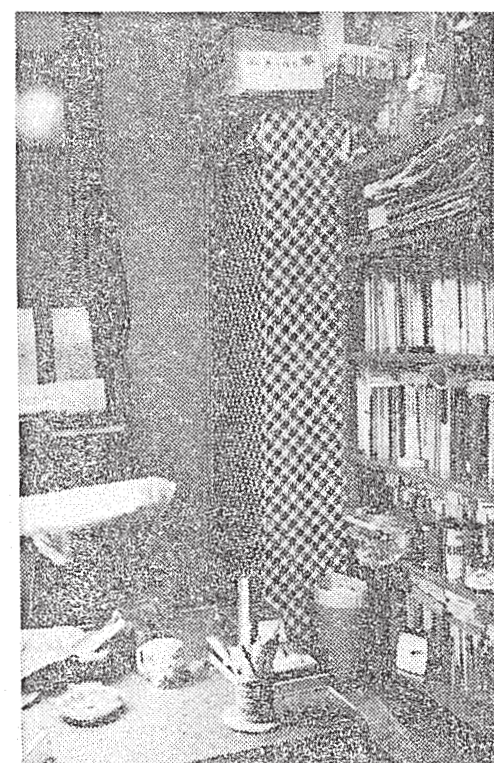


柳大いすを對し、二回廣島商



初のメダリストに
文部大臣杯争奪戦
去る10月20・31日松原ブル
（武蔵野）において全日本五位
月6日から我孫子で行なわれ
部大臣杯争奪戦には予選を1日

なるなと勢の関西勢のため大
羅をした二写真!!。また、12月
日、天野山で行なわれた関西学
（社）菊地秀隆（工2）がと
に1位になるなとゴルフ部の将
が期待されている。



関西大学のおゆみ

(明治十六年、明治十七年) 明志新塾を「國は封鎖制度からの脱却と近代化のため」に、法政學科の設置とその運用に充てるもの養成が必要である。東京學校(明治十三年)、現成女大、明治法律學校(明治十四年)、潤興一、東京專門學校(明治十五年)、瑞華女大、英和利法蘭西學院(明治十八年、現中々)、などの創立について、明治十九年に關東大學の申請、関西法律學校がその条件で明治二十年五月開設大阪經濟講習所院長島村龍雄等の協賛を得て、わが國近代化に則し法学を旨とし、大阪東西協同學院を開学す。

一九〇三年(明治三十六年)

京都府立第一高等商業学校に移り北河内町校舎につけて江戸橋新校

一九〇四年(明治三十七年)

経済學科が法律學科に加ふる設置を見ゆ。

一九〇五年(明治三十八年)

社団法人私立開南大学と改称し、専門學校令による大
學科・大學科附屬の専門科を設置、大學科、專門科(法律
・文藝・商科學科を置く)

一九〇六年(明治三十九年)

九尾山高等商業學校修築。

一九一五年(大正四年)

[illegible]

「ボツ」

ビツミニエスは、なだいてつても野球部のめざましい活躍である。春秋の四回のリク・戦で連戦制覇を挙げ、六月十四日から始まった第二十四回全日本大学野球選手権大会は、東京を敵地大金星、山口県が山口田の劇的サヨナラ打で、はうむりをつたこつし

行われ、國體（生徳尊皇）奉
てタルの井上、木谷組
宿 殿、大盛況、五回戦
にいかれ、スレー、勝ちし、四
回戦、甲関大月、榎本組、五回
戦、おと申、甲関山、中山組
を、それより、セトの大ス
連破た、淡路は坂の川口、伊
藤組、争われ、三、セトの大ス
4、6、0、5、7、セトの大ス
を許せなかつたが、四、セツ
トを、3、6と、通取して、
輝の勝を飾った。

そのほかにも、優勝を逸した
が、上位に入らなク、は多い
が、現在、別の体育館、部員
減少、勉学の、阿立、勉学の
も、先輩たちが、突進、が、如
しい、位置の上、立って、全力
では、優勝は、難し、といふ、
に、勝た、は、い、な、す。

[illegible]

一九四七年 昭和三年)
教授櫻井説堂
一九四八年 昭和三年)
新制大学令(文)(法律・政治学科)、純文(英文・
国文学部令)、商(政治・経済学科)、純文(英文・
三目)兼行(「國文学部令」併行)
一九四九年(昭和二年)
文部省に新聞、史學、古六、純文学科を添増。
一九五〇年(昭和二年)
短大文学部設置、新制大学大学院(国語科・文学・経學
研究科設置)
一九五一年(昭和二年)
京都部工專有秋典興學。學部法人西田大学に改組、東
西学院部研究設置
一九五三年(昭和二年)
大阪府立第一、第二(文・理・工・農・文)
新制大学令(経済・文・理・工・農・文)
経學部・金融經濟科(経済史)の設置科設置、秀徳實業工
一九五四年 昭和二年)
太田隆雄博士讀日本史専攻増設。
一九五五年(昭和三年)
創立七〇周年記念典興學。
一九五六年 昭和三年)
研究実作(文)の設備式
一九五八年(昭和三年)
工学部・機械、電気、化学、金属工学科新設、経済・政治
経済部設置、経済科(金融工學科)設置、金澤専攻増設、第四回
大学大会(学生シンポジウム部)閉会(三ノ越)盛開
一九五九年 昭和三年)
短期大学部廃止、大学院博士課程に純文(文学専攻)増設。
一九六〇年(昭和三年)
工学部理工學科設置、大学院博士課程に國學、工学・機械
・電気・化学・生命工学専攻、および博士課程経済學部科定
増設、創立七十五年記念典興學。
一九六一年(昭和三年)
第一回千早祭挙行。
一九六三年(昭和三年)
大学院博士課程経済學科の金融経済、経済史を廃止し、
経済學部・経済學科設置、工学部に機械工学、材料、応用化学科
設置。

明治二十二年(大正九年)
 明治二十三年(大正十年)
 明治二十四年(大正十一年)
 明治二十五年(大正十二年)
 明治二十六年(大正十三年)
 明治二十七年(大正十四年)
 明治二十八年(大正十五年)
 明治二十九年(大正十六年)
 明治三十年(大正十七年)
 明治三十一年(大正十八年)
 明治三十二年(大正十九年)
 明治三十三年(大正二十年)
 明治三十四年(大正二十一年)
 明治三十五年(大正二十二年)
 明治三十六年(大正二十三年)
 明治三十七年(大正二十四年)
 明治三十八年(大正二十五年)
 明治三十九年(大正二十六年)
 明治四十年(大正二十七年)
 明治四十一年(大正二十八年)
 明治四十二年(大正二十九年)
 明治四十三年(大正三十年)
 明治四十四年(大正三十一年)
 明治四十五年(大正三十二年)
 明治四十六年(大正三十三年)
 明治四十七年(大正三十四年)
 明治四十八年(大正三十五年)
 明治四十九年(大正三十六年)
 明治五十年(大正三十七年)
 明治五十一年(大正三十八年)
 明治五十二年(大正三十九年)
 明治五十三年(大正四十年)
 明治五十四年(大正四十一年)
 明治五十五年(大正四十二年)
 明治五十六年(大正四十三年)
 明治五十七年(大正四十四年)
 明治五十八年(大正四十五年)
 明治五十九年(大正四十六年)
 明治六十年(大正四十七年)
 明治六十一年(大正四十八年)
 明治六十二年(大正四十九年)
 明治六十三年(大正五十年)
 明治六十四年(大正五十一年)
 明治六十五年(大正五十二年)
 明治六十六年(大正五十三年)
 明治六十七年(大正五十四年)
 明治六十八年(大正五十五年)
 明治六十九年(大正五十六年)
 明治七十年(大正五十七年)
 明治七十一年(大正五十八年)
 明治七十二年(大正五十九年)
 明治七十三年(大正六十年)
 明治七十四年(大正六十一年)
 明治七十五年(大正六十二年)
 明治七十六年(大正六十三年)
 明治七十七年(大正六十四年)
 明治七十八年(大正六十五年)
 明治七十九年(大正六十六年)
 明治八十年(大正六十七年)
 明治八十一年(大正六十八年)
 明治八十二年(大正六十九年)
 明治八十三年(大正七十年)
 明治八十四年(大正七十一年)
 明治八十五年(大正七十二年)
 明治八十六年(大正七十三年)
 明治八十七年(大正七十四年)
 明治八十八年(大正七十五年)
 明治八十九年(大正七十六年)
 明治九十年(大正七十七年)
 明治九十一年(大正七十八年)
 明治九十二年(大正七十九年)
 明治九十三年(大正八十年)
 明治九十四年(大正八十一年)
 明治九十五年(大正八十二年)
 明治九十六年(大正八十三年)
 明治九十七年(大正八十四年)
 明治九十八年(大正八十五年)
 明治九十九年(大正八十六年)
 明治一百年(大正八十七年)

